

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷺巣1125-17		
自己評価作成日	令和4年10月14日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192300016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分や自分の家族を利用させたいホーム」を大切に業務にあたっています。家族しか出来ない事もありますが、家族だから出来ない事もあり、その部分をサポートするのが私たちグループホームだと思っています。看護師も2名に増え、スタッフの医療への関心も上がってきました。このコロナ禍で不安になる医療方面も少しでも安心してもらいたいと思っています。看取りについては、人生の最期に関わる事の尊さ、家族との協力の必要性を学ぶことが出来ています。今年は面会をストップしない、をモットーとしており外出支援も増やしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「コロナ禍でも面会を止めない」をモットーに、可能な限り利用者と家族のつながりを大切にしている。毎月、ホーム便りと併せて、本人が発した一言を記録した「近況報告シート」を個人写真と共に家族に送付するなど、利用者の状況が分かるよう工夫している。利用者が野菜の苗をプランターで育てたり、パイナップルのヘタを植えてみるなど、利用者のやりたい事、好きな事を一緒に考え実践している。終末期には、協力医や看護師、全職員が連携を図りながら、本人と家族の揺れ動く思いにも寄り添い、安心して納得のできる最期を迎えられるよう看取り支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護福祉の中でのグループホームの位置付けや特色を知り、少人数制を活かせる個別対応に力を入れている。	開設当時からある理念を、簡潔な理念に作り直す案が出ていた。全職員で話し合ったが、開設時の思いを大切にしたいとの意見があり、現在の理念を継続している。職員は利用者を主体としたケアを常に意識し、四つの理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の清掃活動や交流会が無くなり、面会制限もあるので、なかなか行えていないが、少人数で散歩や喫茶店などを楽しめるようになってきている。	毎年続いていた清掃活動や交流会などの地域行事が、ほとんど中止となっている。現在は、感染予防対策を行った上で周辺を散歩し、住民と挨拶を交わしながら、可能な限り地域とのつながりを維持できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やうれし家新聞で、ホームの活動や研修を知ってもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席予定の方が新型コロナウイルスに感染したり、第7波もあり顔を合わせての会議は中止になっているが、電話や手紙でやり取りをしている。	感染拡大状況をみながら、対面による運営推進会議も開催している。昨年度の目標であった意見交換時の会話内容を具体的に記載するなど、議事録の改善も行われている。開催後は出席した家族代表以外の家族にも議事録を送付し共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの件もあり、役場とはよく連絡を取るようになってきている。ホームの小さな事も話ができてきており感謝している。	日頃から、行政担当者と情報交換を行い協力関係が出来ている。任意のワクチン摂取に関しては、職員に対して過剰な摂取推奨を行わない等の助言を得ている。研修開催案内も定期的に届いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議時の他に身体拘束委員会を定期的に開催している。利用者全員に拘束チェックを行うことで、度々意識してもらいたいと思っている。	身体拘束委員会は、毎月の職員会議の中で開催している。「身体拘束に関するチェック表」を用いて、全利用者の評価を行い、その結果を職員で話し合っている。止むを得ず拘束が必要な場合は、様々な検討を重ね、早期の解除を目指して対応を行い、事例検討の勉強会にも繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけや日頃のケアでの虐待防止はもちろんだが、支援者が思うケアが必ずしも本人のニーズとイコールではない、と気づいてから小まめにモニタリングすることになった。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用を始めた利用者があり、手続きや進捗状況をスタッフと共有した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年はオムツ、衛生用品の値上がりが多いためその都度家族へお知らせとお願いをしている。医療の件は入居時の契約確認をお願いした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・ケアマネの携帯電話やメールでのやり取りが増えている。メールだと文字に残せるのと、お互いの都合を気にせず連絡交換できるので、小まめにやり取りできるようになった。	毎月、通信と併せて、本人がつぶやいた一言やホームでの様子などを記載した「近況報告シート」、写真を家族に送付している。一日一行の近況報告シートには、本人の発した言葉がそのまま書かれており、家族に喜ばれている。意見や要望も出やすくなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・ケアマネが一緒に業務に入っていることもあり、比較的コミュニケーションは取れていると感じている。申し送りや会議でも発言がある。	管理者が現場に入る事もあり、申し送りの際に直接、職員から意見を聞いている。個人面談も実施しているが、日常の業務内で相談を受けることが多い。職員研修や資格取得の支援も積極的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが、得手不得手で適材適所で働くことを大切にしたいと思っている。今年は外部研修も増えており受講が進んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の資格取得への有給休暇、それぞれ興味があることや苦手な分野を理解し、相応の研修に赴いている。研修後は実践できるよう計画を立ててもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町でグループホーム協議会があり、空室状況や困難事例を共有している。アドバイスがもらえるので参考になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは「本人の居場所作り」を大切にしている。ホームのタイムテーブルを押し付けないように気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から聞き取れない内容がある時もある。利用しているサービス事業所からの情報も大いに役立つ。入居されてからも時間をかけて聞くことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	引継ぎ時に前にケアマネからも当ホームを選んだ経緯を教えて頂く。家族からだけでは分からない事情が把握できる事がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることややりたい事を把握するように努めている。家族からの情報もあり、手伝ってもらえる事は願っている。利用者同士の交流にもつながっていると感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はなるべくストップしない、を目標にしている。コロナ禍もあるので間が空く家族へは写真と近況報告を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者からリクエストがあれば喫茶店に出かけることもある。買い物も付き添っている。	感染拡大状況にもよるが、出来る限り「面会を止めない」を目標に、換気ができる環境を整え、時間を決めて居室内での面会を行っている。また、感染予防対策をした上で、近くの喫茶店に歩いて行くなど、馴染みの場とのつながりが途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、相性が合わない場合や一人を好まれる方もいるので様子を見て席順を決めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご夫婦で生活されていて、どちらかが入居されると独居になってしまう。家族が心配されるので他サービスを紹介して利用されている。(配食、デイ)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントだけでなく、入居後もアセスメントを行い本人の希望や能力を把握して個別プランを立てるようにしている。医師などの協力も必要。	今年度より、職員の担当制を採用した事で、職員一人ひとりが、これまで以上に責任感を持って利用者に関わることができている。担当者が本人の思いや意向を丁寧に汲み取りながら、ケアプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用の様子はとても大切な情報と思っている。入居後も継続できる支援は取り入れていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や現時点でのADLを把握しておくことで、本人の希望にどこまで添えるのか、を検討している。また多職種からもアドバイスをもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自宅が気になって毎日落ち着かない方は、家族と相談し家族とスタッフで外出支援を行うことにした。家族にもケアに関わってもらう良い機会となっている。	担当制を活かした支援により、本人の想いが反映された介護計画が作成されている。ケアマネジャーは、担当職員が利用者との関わりの中で、アセスメントしたものを介護計画に反映させ、家族に説明を行い同意を得ている。	担当職員は、日々介護計画に沿ってケアに取り組んでいる。その計画の実践とモニタリングの相互関係が書面上では確認が難しいため、全職員が分かり易い評価方法の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として「気づきノート」があり、心身状態の変化や往診の記録、看護記録を記入している。多職種が書き込めるので、情報共有に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出頻度が減っているが、家族からもらった季節の果物や差し入れなどを使っておかし作りをしたりしている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつ通っていた喫茶店やスーパーなどへ出向くことができているが、地域のイベントが開催されないのでも来年は参加したいと願っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医と契約している。それ以外の眼科や皮膚科は家族に付添いをお願いしている。その際は医師の紹介状やホームサマリーをお渡ししている。	契約時に、かかりつけ医の継続や協力医への変更ができることを、利用者と家族に伝えている。現在は全利用者が協力医を選択している。職員として看護師の配置があり、協力医と連携しながら、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科往診、歯科往診は2週間ごとある。看護師がメインとなり医師や薬剤師とも書面やメールでこまめに情報共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	最近では病院へのケアプランの提供も増えてきている。退院後の本人の生活を入院中から連携を取りながらプランを立てる事ができる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期の在り方について、その時点での希望を聞いている。終末期時点での本人の状況で本人や家族の気持ちが揺らぐこともあるので、その都度医師を交えて話し合いを持つようにしている。	契約時に看取り指針について説明している。気持ちが揺れ動く家族に寄り添いながら、これまでに何件も看取りを行っている。終末期には看護師がポジショニングや口腔ケアを行いながら、職員と共にチームとなって支援に取り組み、家族に進捗状況を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は看護師が1人増えたので、介護スタッフにも医療面でよい刺激になっている。事故が起こったあとの初動の重要性を再確認した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成に苦労している。作成には行政からのアドバイスや資料提供などがきちんとあり、助かっている。	ホームの立地環境は、ハザードマップからは問題ないが、過去には大型台風接近の予想情報により、緊急事態を想定して、家族に一時的な外泊要請を電話で伝えた事がある。BCP作成について、行政と連携をしながら今年度中の策定を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームは男性が多いので、言葉遣いには気を付けている。男性は対等な雰囲気嫌がられる方が多い。	利用者の誕生日会は、月毎に行うのではなく、その日に合わせて本人を主役を実施し、皆で祝っている。看取り支援を行った際には、他の利用者にも伝え、共に生活してきた仲間として、皆で合掌して見送るなど、一人ひとりの尊厳を大切に支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張を出来ない方も多いため、表情や仕草などから読み取ることも必要。自社で満足度チェック表を作成し活用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今年から利用者の担当を決めて、普段の様子やオムツの見直し、薬剤のチェックも行うこととした。個別対応も進んでいる。(外出、家族との連絡)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪を毎月にしてもらうことができた。先月切れなかった利用者も間隔をあけずに散髪できるようになった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食が少ないので、ホーム内での食事やおやつ作りが増えている。家族から頂く野菜や芋類がとてもありがたい。	配食サービスを利用しながら、ご飯や汁物はホームで作っている。また、家族から届く旬の野菜も活用するなど、季節感も大切にしている。利用者は野菜の皮むきや食器洗いなど、出来る範囲で関わっている。運動会や敬老会等の行事では、献立を差し替え、オードブル料理で楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1か月毎に体重測定はあるが、1か月で2キロ以上減少の場合は医師に相談し、カロリーを増やしながらかつ小まめに測定して観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと口腔ケアを行っている。義歯の方が多いので噛み合わせや調整をチェックして歯科と連携している。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとに担当のスタッフに管理してもらうようになった。職員会議で使用観察と報告を行っている。会社使用のオムツだけでなく、市販の物も利用することもある。	担当職員が利用者の排泄アセスメントを行い、職員間で共有しながら、適切な排泄用品の選択について話し合っている。尿意が分かる利用者には見守りで支援し、声掛けが必要な利用者には、定期的なトイレ誘導を行いながら、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因が精神的なものもあり、また便秘が認知症を悪化させる原因にもなるので、看護師に排便コントロールを担当してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を取ってもらえるようにしているため希望が多く入浴が終わらない日もあるが、満足してもらえるようになってきている。	1階に機械浴、2階は一般浴と2種類の浴槽を用意し、本人の希望や身体状況に応じた入浴を支援している。週2回の入浴を基本とし、同性介助希望も職員の配置をみながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ドアを閉め切ることが怖い方もいればカギを掛けたい方もいる。なるべく利用者の生活習慣に沿いながら、ドアカーテンを上手に利用する事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の担当スタッフ制にしてから、以前よりも何を服用しているのか副作用があるか、を気にかけるようになった。変化があれば気づきノートに記入する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、ゲーム、コーラスなど好みがバラバラなのでなるべく物品を揃えてできるようにしている。家族からの持ち込みもあり、ゆっくり楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会をなるべくストップしない、をモットーとしたい。面会希望が普段から多いので予約制で行っている。	感染予防対策をした上で、散歩をしたり、近くの喫茶店まで歩いて出かけている。また、買い物に出かけて洋服を購入したり、野菜の苗を買いプランターで育てている人もある。ドライブは人数を分け、紅葉狩りへ行く予定としている。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭入れを持ち歩かないと不安な利用者がある。個人の状況に合わせて家族と相談し、持ち歩いてもらう事としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらからのお知らせや写真送付はもちろんだが、家族からも現在の様子や、昔の写真があればもらう様にしている。本人がとても喜ばれる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作った飾りや、夏祭りで使用したうちわなど、季節を感じてもらえるようレイアウトしている。トイレは開けたままされる方がいるのでカーテンを使用している。	明るく広いリビングには、小学生から送られた地元特産のひょうたん飾りが吊るされている。職員の手伝いをしたり、TVで映画やYouTubeを楽しむ事もできる。曜日ごとに用意されたレクリエーショングッズも飾り、思い出の共有や次の楽しみ、曜日感覚の維持にも繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当ホームはフロアで過ごされる方が多い。色んな物に興味を持てるよう、ゲームや塗り絵、農作物などが目につくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望もあるが、レイアウトが危険な場合もあるので家族や本人と相談しながら部屋作りをしている。	居室には、写真やレクリエーションで表彰された際のメダルなど、個性あふれる物が飾られている。居室の窓も大きく、明るい陽射しが入り、利用者が居心地良く過ごせるよう整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが確認しにくい方は、夜間は蛍光テープで誘導したり、鈴をつけたりして工夫している。何とかご自分で移動できている。		